

当院で働く職員に、愛用する文具や日用品について語ってもらいます。

これがなくちゃ落ち着かない 私が愛用するMONO 第2回



私が愛用するモノは高校時代にアルバイトで買ったグローブです。

さほど裕福でなかったため、入部当初は兄のおさぎりのグローブを修理しながら使っていました。しかし、ほどなくして未熟なキャッチング技術のため大破しました。将来のドラフト候補でもなかった私は、親におねだりも出来ず、それからというもの、道具庫の隅に放置されていた大先輩のものであろう年期の入った骨董品を、とっかえひっかえでしのいでいました。(今思えば、軟式用やソフトボール用もあったような・・・)。

そんな折、我が母校にはシーズンオフに半ば強制的にアルバイトをして部費を稼ぐという伝統がありました。大半は部費として上納するのですが、残った分でグローブを買うという夢のような伝統でもありました。

そうして手に入れた待望の自分用のグローブで、(コロナ禍で2年ほど出場していませんが)30年あまり経った今でもマスターズ甲子園に出場し愛用しています。野球界では有名な話ですが、次期日本ハムファイターズBIGBOSS(監督)の新庄剛志選手もプロ入りから引退まで17年間、同じグローブを愛用し続けたそうです。

臨床検査部 職員(Y)

新任医師の紹介



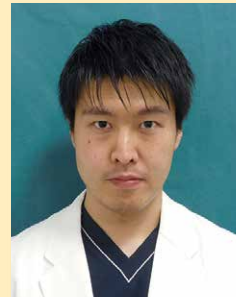
氏名 小林 武弥
救急科(部長)

コメント
7月から赴任致しました。最終治療を見据えた初療を目標に救急医療に携わりたいと思います。
よろしくお願い致します。



氏名 沈 娇
産婦人科(医長)

コメント
8月から赴任しました。皆様のお役に立てるように一生懸命がんばります。
よろしくお願い致します。



氏名 高 正浩
外科(医員)

専門 上部消化管
コメント
10月から赴任しました。地域医療に貢献できるようがんばりますので、よろしくお願い致します。



氏名 大谷 梓沙
産婦人科(医員)

コメント
10月より赴任しました。一日でも早く慣れて、皆さまのお役に立てるようにがんばりますので、どうぞよろしくお願い致します。

令和4年1月から皮膚科外来診療が紹介制になります



待ち時間の緩和及びスムーズな診察を目的として、令和4年1月から当院の皮膚科外来は紹介患者さま・予約患者さまのみの診察となります。皮膚科を初診・予約なしの再診で受診される際は、必ず医療機関からの紹介状(診療情報提供書)をご用意ください。

◆問い合わせ：医療事務室 TEL 06-6387-3311



平素より市立吹田市民病院だよりをご愛読いただきありがとうございます。
ご意見がございましたら市立吹田市民病院までご連絡ください。

●編集・発行 市立吹田市民病院 広報委員会

吹田市民病院 だより No.79

〒564-8567 吹田市岸部新町5番7号
TEL(06)6387-3311
FAX(06)6380-5825
ホームページ
<https://www.suitamhp.osaka.jp>
メールアドレス
shomu@mhp.suita.osaka.jp



一脳・脊髄の健康を守る皆一

脳神経外科のご紹介



脳神経外科 のご紹介

脳そして、脳からつながる脊髄は私たちにとってとても大切な体の部位です。
今回は、脳・脊髄の健康を守る皆として、高度な専門医療を提供する市立吹田市民病院の脳神経外科をご紹介します。



めまい

どんな症状があったら 脳神経外科を受診すべきか？

脳神経外科疾患による症状は多様で、頭痛、めまいなどの一般的症状から、視野・視力の障害、顔面や手足のしびれ・動かしにくさ、電気が走るような痛み、歩行障害、認知障害などが挙げられます。



ろれつが
まわらない



片目が見えづらい



物を落とす



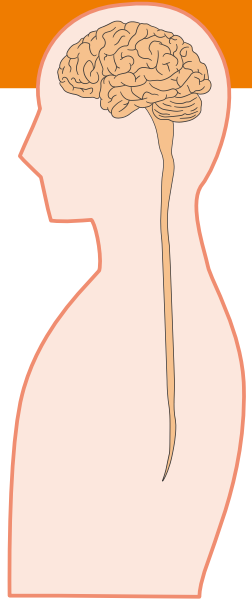
片側の麻痺



激しい頭痛

詳しい受診の方法については、中面をご覧ください。

脳神経外科の診療と取り組み



当院脳神経外科は、軽症から手術の必要な重篤な疾患まで、幅広くかつ高度な専門医療をご提供しています。

脳神経外科の診療対象となるのは、脳・脊髄腫瘍、脊椎・脊髄疾患、脳機能疾患（顔面けいれん、三叉神経痛（さんさしんけいとう）など）、頭部外傷（慢性硬膜下血腫を含む）、脳血管障害など、脳・脊髄・神経に関わる疾患全般です。

当院脳神経外科では、在籍医師の専門性や、保有する最新の治療機器を活かして、特に以下の診療に積極的に取り組んでいます。

脳神経外科 部長 梅垣昌士



1) 脳と脊髄の腫瘍（しゅよう）

脳・脊髄に生じる良性腫瘍（髄膜腫、神経鞘腫など）、および悪性腫瘍（悪性神経膠腫、悪性リンパ腫など）は顕微鏡などをを用いた手術と、術後の化学療法や放射線療法などを組み合わせた、包括的な専門治療が必要です。当科では、最新の手術支援機器である外視鏡システム（ORBEYE）をいち早く導入したことで、従来の手術顕微鏡よりもさらに鮮明な視野で精密な手術を行うことが可能になりました。

また当院は大阪府がん診療拠点病院としての指定を受けており、手術後の放射線治療、化学療法をシームレスで実施しております。

さらにリハビリテーション科の協力により、理学療法、作業療法、嚥下訓練、高次脳機能障害に対する評価など、総合的な医療を提供しております。



2) 患者さんに負担の少ない脊椎・脊髄手術

現在、脳神経外科には、日本脊髄外科学会指導医2名、認定医1名が在籍しており、脳疾患のみならず、脊椎脊髄疾患の治療にも重点を置いております。脊椎脊髄疾患の病気には、以下のようなものがあります。

脊髄の疾患 脊髄腫瘍、キアリ奇形、脊髄空洞症など

脊椎の疾患 ようぶせきちゅうかんきょうさくしやう 腰部脊柱管狭窄症、腰椎すべり症、椎間板ヘルニアなど

脊椎脊髄疾患の特徴としては、手足のしびれや痛み、筋力低下、歩行障害など、脳の疾患と類似する神経障害が挙げられます。したがって、こうした症状が現れた際には、脳の病気なのか、脊椎・脊髄の病気なのか、はたまたそれ以外の病気が原因なのかを診断し、適切な治療を行う必要があります。

当科における手術・治療の特色は患者さまに負担が少ない「低侵襲脊椎脊髄治療」です。マイクログ手術の技術などを応用し、微細な神経組織の保護を第一に考え、より小さな創で早期の社会復帰が可能な手術に重点を置いています。



3) 小児脳神経外科



当院の脳神経外科では、小児神経外科認定医を中心として、以下のような小児の頭部外傷、先天疾患に対する専門診療も行っています。

顔や頭のケガ
(頭部外傷など)

当科を受診される小児患者の多くが頭部外傷です。画像検査については放射線被曝の観点から頭部CTの必要性については、受傷機転や症状から慎重に判断し適切な診断を行います。顔面・頭部の縫合を必要とする処置については必要時適切な鎮静を用いて、きれいな縫合および創部処置を心がけています。

腰にできるくぼみや孔の相談
(腰仙部皮膚陥凹、潜在性二分脊椎など)

新生児～乳児期に、腰仙部にdimpleと呼ばれるくぼみや孔、腎裂（でんれつ）の異常などがあることを健診などで指摘される患者さまに対して、脊椎の検査を行っています。生後約1ヶ月までであれば外来エコー検査、それ以降であればMRI撮影で診断を行っております。

赤ちゃんの頭のかたち相談
(大頭症、斜頭症など)

最近、特に増えてきているのが乳児の頭部形状に関するご相談です。多くは出産時や向き癖に伴って進行する頭位性斜頭と呼ばれる頭蓋の変形や良性の頭囲拡大ですが、まれに「頭蓋骨縫合早期癒合症（ずがいこつほうごうそうきゆうしょう）」と呼ばれる骨成長の異常を伴った疾患や、脳室に髄液が過剰に溜まって、さまざまな症状を引き起こしてしまう「水頭症（すいとうしょう）」などが隠れている場合があります。

受診の方法

当科の受診を希望される場合は、かかりつけ医から前もって紹介状（診療情報提供書）をご用意下さい。

また、かかりつけ医より当院**患者支援センター（地域医療連携）**を通して予約をお取りすることができます。

かかりつけ医



初期診療
健康管理
訪問診療

紹介
治療が必要な
患者さま

市立吹田市民病院



専門的医療
高度な検査
入院診療

逆紹介
治療を終えた
患者さま

連携

リハビリテーション科との連携

脳脊髄疾患に対するリハビリテーションについて

治療入院中は、必要に応じリハビリテーション科の協力を得てリハビリテーションを実施します。当科と脳神経内科、リハビリテーション科スタッフ、看護師、患者支援センタースタッフ合同で、週1回の定期カンファレンスを行い、個別の患者さまの病状についての情報共有を行うとともに、スムーズな回復期への移行を図っております。



リハビリテーション科については、病院広報誌「ともに」11号でも取り上げております。当院のホームページからもご覧いただけます。